

災害に強い海岸防災林の再生を目指して  
**11月16日（土）第1回「千葉県山武市九十九里浜植樹」を実施**  
1,000名のボランティアの皆さまとともに10,000本を植樹

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）は、11月16日（土）に第1回「千葉県山武市九十九里浜植樹」を実施します。

千葉県九十九里浜地区の海岸県有保安林は、松くい虫被害や湿地化により疎林化が進み、また、東日本大震災では津波被害にも遭いました。この様な状況を受け、当財団は、病虫害及び台風や津波などの災害にも強い海岸防災林の再生を目指すため、同県「法人の森事業」に賛同し、実施要領に基づく協定締結のもと、3年計画で植樹を行います。

今回の植樹地が位置する山武市は、台風15号により甚大な被害を受けました。被災地域の復興が急がれる中、地域の皆さまと本植樹活動の実施について協議を重ねた結果、本植樹活動が山武市の復興の一助になればとの想いが致し、山武市民ならびに県内外のボランティア計1,000名の皆さまとともに、10,000本の植樹を行います。

当財団は、今後もいのちあふれる美しい地球を次代に引き継ぐため、植樹活動をはじめとする環境保全活動に積極的に取り組んでまいります。

記

日 時： 2019年11月16日（土） 10:00～11:30  
場 所： 千葉県山武市蓮沼ホ字矢指27-7（蓮沼海浜公園隣接地）  
参加人数： 1,000名  
植樹本数： 10,000本  
樹 種： 抵抗性クロマツ・マサキ・トベラ・アキグミなど  
植樹面積： 1.2ha  
主 催： 公益財団法人イオン環境財団  
後 援： 千葉県・千葉県教育委員会・山武市・山武市教育委員会  
協 力： イオンリテール株式会社  
主な出席者： 千葉県 副知事 滝川 伸輔 様  
（予定） 山武市 市長 松下 浩明 様  
公益財団法人イオン環境財団 理事長 岡田 卓也  
イオン株式会社 取締役会議長 横尾 博  
イオンリテール株式会社 常務執行役員 湊 博昭

以上

## ご参考

### 【公益財団法人イオン環境財団について】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと1990年に設立されました。設立以来、環境活動に取り組む団体への助成や世界各地での植樹、生物多様性への取り組みを主な事業として、さまざまな活動を継続しています。イオンの植樹は1991年にスタートし、累計植樹本数は1,193万本（2019年2月末時点）を超えています。

（当財団ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>）

## ■植樹事業

各国政府や地域行政と協力し、自然災害などで荒廃した森の再生を目的として、日本はもとよりアジアを中心とした世界各地で植樹を行っています。2019年度は、北海道南富良野町、宮城県石巻市、宮崎県綾町、中国武漢市、インドネシア ジャカルタ、マレーシア ビドゥーにおいて植樹を実施しました。

### 千葉県における植樹活動

#### 2016年～2018年「千葉市植樹」

2016年に、千葉市富田都市農業交流センターで、第1回「千葉市植樹」を実施しました。地域の皆さまやイオンチアーズクラブの子どもたちなど1,200名のボランティアの皆さまとクヌギ、コナラ、ヤマザクラなどの広葉樹8,000本を植えました。第2回は2017年に、第3回は2018年に泉自然公園（千葉市若葉区）で、野鳥の森の再生を目指し、植樹を実施しました。2年間で1,600名のボランティアの皆さまと合計17,000本を植えました。



2018年 泉自然公園

#### 2013年～2015年 千葉県「浦安市植樹」

東日本大震災時の液状化で噴出した土砂の処理が深刻な課題となっていたことを受け、この土砂を土壌の盛土として活用する植樹活動を実施しました。2013年から2015年の3年間の活動を通じ、2,100名のボランティアの皆さまと合計18,000本を植えました。



2015年 日の出海岸沿い緑道

## ■環境教育事業

### 【太陽光発電システム寄贈】

再生可能エネルギー活用の啓発・普及および環境教育を目的に、2009年から世界各地の小中学校へ「太陽光発電システムの寄贈」を行っています。2019年度までに、日本、マレーシア、ベトナム、中国の合計51校に寄贈しました。

千葉県においては、2010年に鴨川市立鴨川中学校に寄贈しました。



2010年 千葉県鴨川市立鴨川中学校



2019年 東華三院姚達之記念小学

### [アジア学生交流環境フォーラム]

2012年より、国連生物多様性の10年のスタート年を契機として、グローバルな視野で活躍する環境分野の人材育成を目的に、アジアの大学生を対象に「アジア学生交流環境フォーラム」を毎年実施しています。

2019年は、「持続可能な平和のため」をテーマに、王立プノンペン大学（カンボジア）、清華大学（中国）、インドネシア大学（インドネシア）、早稲田大学（日本）、高麗大学校（韓国）、マラヤ大学（マレーシア）、ベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム）、チェラロンコン大学（タイ）、ヤンゴン経済大学（ミャンマー）、フィリピン大学

（フィリピン）の10か国合計80名の学生が参加し、8月2日～6日の期間にカンボジア・プノンペンとシエムリアップで開催しました。



第8回 開講式（王立プノンペン大学）

### ■助成事業

#### [環境活動助成]

1991年より28年間にわたり、豊かな自然環境を次代へ引き継ぐため、持続可能な社会を目指し、世界各地で活動している団体に対しての助成支援を行っています。その実績は累計で2,948件、総額26億8,289万円となりました。2019年の第29回は「植樹」「里地里山里海の保全・河川の浄化」「環境教育」「野生生物・絶滅危惧生物の保護」の4つの活動分野に対して助成しています。

### ■パートナーシップ

#### [国際専門機関、環境省との連携]

生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的として、「生物多様性みどり賞（国際賞）」と「生物多様性日本アワード（国内賞）」の2つのアワードを創設し、隔年で顕著な環境保全活動が認められる個人・団体を顕彰しています。9月26日（木）に第6回「生物多様性日本アワード（国内賞）」授賞式を行い、株式会社コクヨ工業滋賀がグランプリを受賞しました。



第6回 授賞式（国際連合大学）

#### [東京大学との連携]

地球の環境変化や環境問題について、参加者とともに解決方法を考え、実行策を議論し、講演と対話型パネルディスカッションで理解を深め、成果をまとめる「イオン未来の地球フォーラム」を開催しています。

2020年2月1日（土）には、東京大学安田講堂にて、「第4回イオン未来の地球フォーラム」を実施します。



第3回 フォーラム（東京大学安田講堂）

#### [早稲田大学との連携]

国際的な視野で生物多様性の課題を討議する環境教育のプログラムを実施しています。2016年10月6日～7日ベトナム国家大学ハノイ校で初めて開催しました。

本年度は2020年2月3日～4日に、チュラロンコン大学（タイ）で開催します。



第3回 インドネシア大学

#### **[日本ユネスコエコパークネットワークとの連携]**

2017年、「生態系の保全」と「持続可能な利活用」の調和を目指し、日本のユネスコエコパーク（生物圏保存地域）における3つの機能（保全機能、経済と社会の発展、学術的研究支援）に関して、日本ユネスコエコパークネットワークと国内初となる連携協定を締結しました。「生態系の保護・保全のみならず自然と人間社会の共生に重点を置く」というユネスコエコパークの理念に賛同し、ユネスコエコパークのさらなる発展に向けて取り組んでいます。

#### **[リモート・センシング技術センターとの連携]**

2019年、一般財団法人リモート・センシング技術センターと、持続可能な地域づくりの実現に向け、リモートセンシング技術<sup>※</sup>の活用に関し連携協定を締結しました。具体的には、リモートセンシング技術による地球規模のグローバルな視点で得た、過去及び現在の地表面の情報により、森や地域の状態を効果的に調べ、植樹候補地の選定に必要な情報や、植樹前後の森林の状態を客観的に把握します。また、リモートセンシング技術を活用した衛星画像データにより、森林減少、地球温暖化、大気汚染などさまざまな環境問題を把握、理解し、地域の持続的発展のための環境教育も実施します。

※リモートセンシング技術とは、人工衛星などに搭載した観測機器（センサ）を使い、離れた位置から地球表面等を観測する技術で、植生、土壌や大気の水分量、地表や海面の温度、地表面の変位など地球環境を把握するための様々な情報を得ることができます。